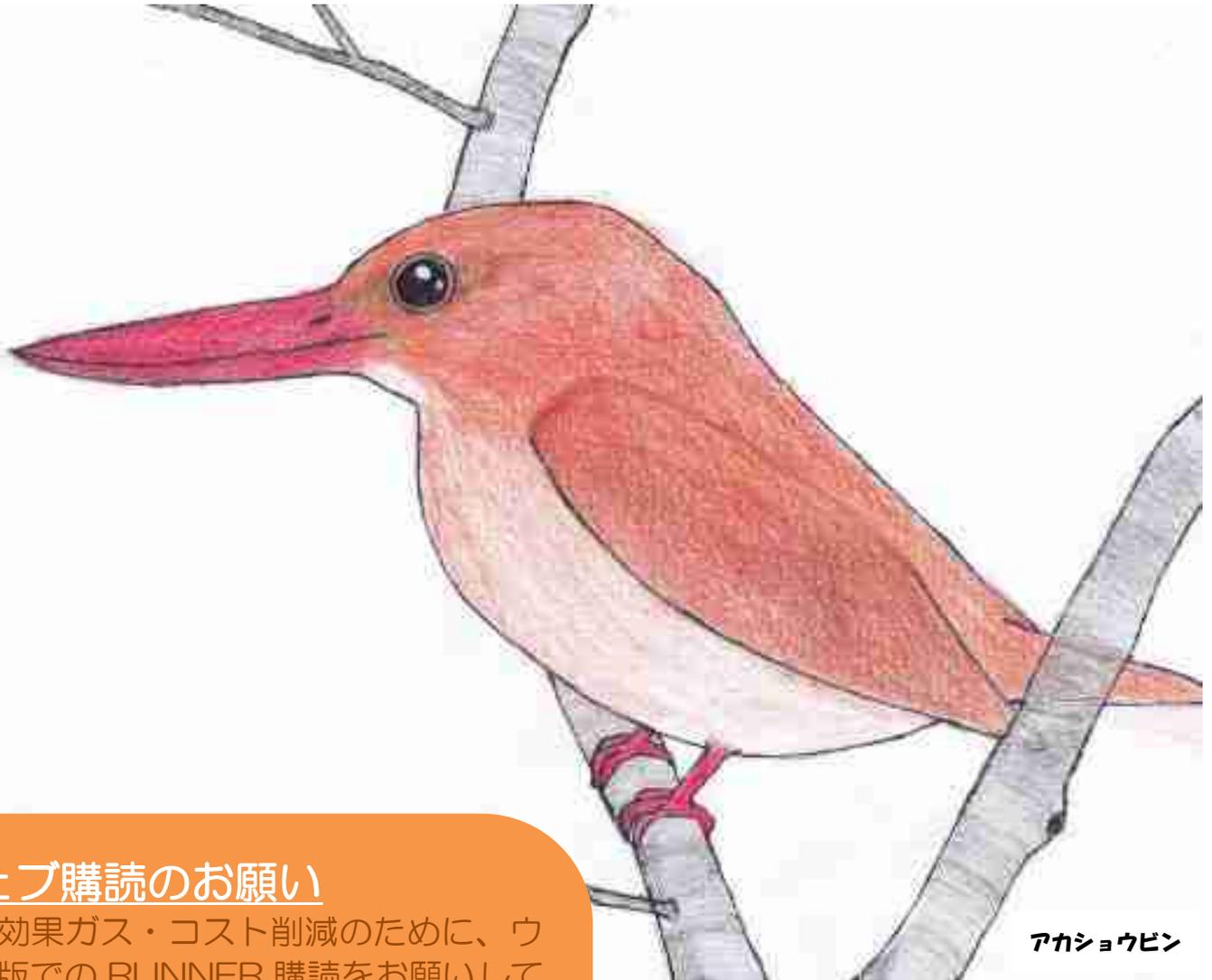




# RUNNER

Vol.9



アカショウビン

## ウェブ購読のお願い

温室効果ガス・コスト削減のために、ウェブ版でのRUNNER購読をお願いしております。ご協力下さる方は、題名「RUNNER メール配信希望」というメールで、メールアドレスとお名前を [wildrelief@kanagawa-choju.sakura.ne.jp](mailto:wildrelief@kanagawa-choju.sakura.ne.jp) までお送り下さい。

## アンケートご協力のお願い

本号よりアンケートをウェブに移行しました！ご協力よろしくお願い致します。  
<http://eng-maker.com/4YQ8w7D>

## 目次

- ・今日のRUNNER・・・・・・・・・・ 2,3
- ・活動の現場から・・・・・・・・・・ 4,5
- ・特集！「飼養動物×ボランティア」  
    のいい話・・・・・・・・ 6,7,8
- ・鳥見旅・・・・・・・・・・・・・・・・ 9
- ・衝突中間報告、BINOSvol.17に登場！！  
    ・・・・・・・・ 10,11
- ・インフォメーション・・・・・・・・ 12

# 今日のRUNNER

第九走者：アカショウビン

ここでは保全センターに運び込まれた傷病鳥獣について保護記録やエピソードを交えてご紹介します。

## 迷い込んだ赤い鳥

今回紹介するのは、伊勢原市のショッピングセンターで保護されたアカショウビンです。このアカショウビンは保護されたときの状況から、渡りの途中で建物に衝突したと思われるが、元気で外傷もないため、すぐに放野されました。

神奈川県鳥類目録Vによると、アカショウビンは神奈川県では夏鳥として観測されていますが、その数は減少傾向にあります。また、繁殖期・絶滅危惧Ⅱ類に区分されています。保全センターでは過去に4例の保護記録があるのみで、保護されるのは稀なようです。



2010年9月10日 放野前

## 保護個体データ

受付番号：100459

種類：アカショウビン

(幼羽が残る若鳥)

保護年月日：2010年9月7日

保護場所：伊勢原市(体重：92.5g)

栄養状態：良好

原因：衝突

転帰：2010年9月10日放野(体重：87.1g)

## 保護時の葛藤

このアカショウビンを保護したのは、偶然買い物に来ていた方でした。買い物前にうずくまっているアカショウビンに気づき、保護せずに自然の流れに任せるか、保護すべきかと迷われたそうです。しかし、買い物後にもまだうずくまっていたため、結局保護することにしたそうです。保護のため近づいても逃げませんでした。触れたときには抵抗を見せたそうです。

その晩は家で安静にしたところ、翌朝には元気に水を飲むまでに回復したそうです。そのような過程を経て、アカショウビンは2010年9月8日に保全センターへ運ばれました。

## 放野までの道のり

### 〈一日目 9月8日〉

保全センター初日、アカショウビンは室内ケージに入りました。とても臆病で、少し人が近づくと暴れだすので、ケージの周囲にはビニールシートを張りました。エサは死んだアジをあげましたが、全然食べてくれませんでした。

### 〈二日目 9月9日〉

外傷も無く、栄養状態も良かったため、放野に向けて野外フライングケージ(山田ハウス)に移されました。生きた川魚やカナヘビをあげたところ、あっという間に食べ、野生の魂を見せつけました。

### 〈三日目 9月10日〉

ついに放野の日がやってきました。あまり保護されない鳥なので、鳥類標識調査員(バンダー)さんの協力の下、計測をし、足環を付けました。

足環をつけたアカショウビンは保全センターの野外施設で放野されました。

## ○図鑑○ NO.9

### ・アカショウビン *Halcyon coromanda*

カワセミ科 L27.5cm

夏鳥として全国に渡来する。森林に生息して、朽木やキツツキ類の古巣、アリ塚などに営巣する。9月上旬には暖かい南へと渡っていく。

体の大部分は黄褐色を帯びた赤で、上面には紫色の光沢がある。喉は白っぽい。嘴は太くて赤く、足も赤い。腰の一部が瑠璃色で、飛翔時にはよく目立つ。

主食はカエル、トカゲ、サワガニ、昆虫類。キョロロロ…と尻下がりに鳴く。

神奈川では、4月中旬から7月下旬まで、丹沢や箱根の比較的標高の低い山間部に生息し、繁殖もしていたが、近年は途絶えている。

#### ※参考文献

- ・高野伸二(2006)：フィールドガイド日本の野鳥、増補版、日本野鳥の会、東京。
- ・真木広造、大西敏一(2000)：日本の野鳥 590、平凡社、東京。
- ・日本野鳥の会神奈川支部(2007)：神奈川県の鳥 2001-05 神奈川県鳥類目録V。
- ・週刊朝日百科 動物たちの地球 834号 1991



2010年9月10日 (写真：丸岡禮治氏)

## 記録から見るアカショウビン

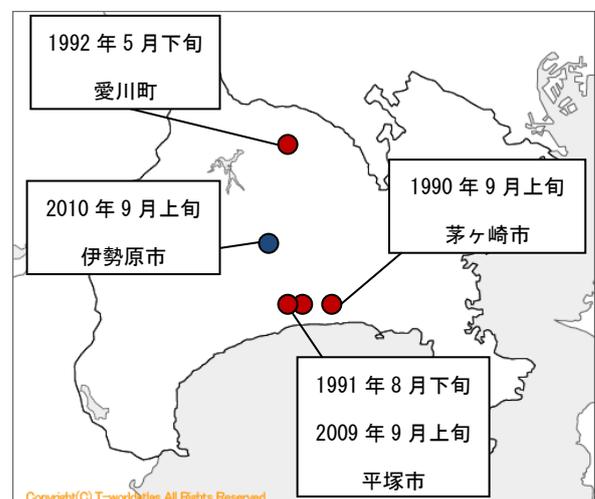
ここからは過去のアカショウビン保護記録を取り上げて見ていきたいと思います。

図はこれまでにアカショウビンが保護された時期および場所です。5例中4例が8月下旬から9月上旬に保護され、地域も限られています。

詳しくは分かりませんが、渡りの時期でその地域を通るのかもしれませんが。また長野県でも、同時期に1986年から3年間で計4羽のアカショウビンが窓ガラスなどに衝突した、との記録もあり

ます。よって、渡りの時期は8月下旬から9月上旬と思われます。

このように、データを解析することで見えてくる生態があり、足環をつけたアカショウビンが野外でまた発見されれば、さらに彼らのことを知ることができます。データ解析は、傷病動物の世話を追われて普段はなかなかできません。しかし、行うことで見えてくることは沢山あるのだと思います。折角の記録を生かすためにも、できるだけデータ解析を行いたいですね。



# 活動の現場から

このコーナーでは普及啓発活動やイベントなどに参加したボランティアがその体験をもとにレポートしています。

## 野生動物救護ボランティア研修会& 修了式

2010年9月23日(木)に神奈川県自然環境保全センターにて、平成22年度のボランティア講習会受講者の修了式と、講演会が行われました。神奈川県自然環境保全センター・(社)神奈川県獣医師会・NPO法人野生動物救護の会の3団体が主催で、救護の会は受付などの手伝いをしました。

新米ボランティアの方々には、傷病舎での作業を始め、普及啓発活動などの活動にも積極的に取り組んでいてもらいたいと思います。

修了式の後に行われた講演会の演題は『もっと知りたい!身近な野鳥』。講師には日本野鳥の会 主席研究員の安西英明先生をお呼びしました。巧みなしゃべりとその豊富な知識で皆の興味をひきつけていました。



主催3団体を代表して、(社)神奈川県獣医師会 副会長 鳥海弘先生から修了証が手渡されました



講演していただいた安西英明先生

## 動物フェスティバル神奈川2010 in ちがさき・さむかわ

10月3日(日)茅ヶ崎市役所にて「動物フェスティバル神奈川2010 in ちがさき・さむかわ」が開催されました。

このイベントでは外来生物について考えたり、補助犬の役割について知ったり、馬など本物の動物に触れたりしながら私たちのまわりの動物たちについて幅広く知ることができます。

私たち救護の会は『バードストライク』について、また『外来種』についても剥製や説明文を交えながら展示を行いました。当日は晴天にも恵まれ、親子連れから年配の方々まで非常にたくさんの方々が私たちのブースに足を運んでくれました。少しでも多くの方が、野生動物の救護原因の1つである建物などの衝突被害や、外来種の問題について知ってくれたら良いと思います。



動物フェスティバルの様子1



動物フェスティバルの様子2

## 🌩️ ジャパンバードフェスティバル 2010 ( JBF )

10月23日(土)、24日(日)に千葉県我孫子市手賀沼周辺で「ジャパンバードフェスティバル2010」が開催されました。鳥をテーマにした大きなイベントであり、今年は10回目の開催です。救護の会を含むNPO団体の展示や、鳥に関するグッズ販売などがありました。さらに、講演会や写真展なども行われていました。

初日は天気も良く、暖かかったですが、2日目は少々天気も悪く寒い中の参加となりました。救護の会のブースでは『衝突』をテーマとした展示を行いました。今回は衝突が原因で野生復帰できなくなり、長期飼養されているツツドリ「ルンバちゃん」が東京バードフェスティバル(TBF)に引き続き大活躍してくれました。やはり、「百聞は一見にしかず」とは、よく言われたものでインパクトは相当のものだったと思います。

ブースを訪れてくれた人の中には東京バードフェスティバルにも参加していた人がいて、ルンバちゃんのことを見て「まだ元気で良かった」と声をかけてくれる人もいました。

## 🌩️ 2010 あつぎ環境フェア

10月31日(日)に厚木市中央公園で厚木市主催の「2010 あつぎ環境フェア」が開催され、救護の会はパネル展示をして参加しました。市民1人1人が環境にやさしいライフスタイルを始めるきっかけになるように開催されたイベントです。

日々複雑化していく環境問題の中で私たちが出来ることは一体何でしょうか？

私たち救護の会はパネル展示を通して、環境問題の一番の被害者と言っても過言ではない野生動物の立場を訴えかけてきました。



ジャパンバードフェスティバルの様子1



ジャパンバードフェスティバルの様子2

# 特集！「飼養動物 × ボランティア」のイイ話

短期・長期飼養ボランティア（一般ボランティア）は「神奈川県野生動物救護ボランティア講習会」の講義2日間、実習3日間以上を受けると保全センター「野生動物救護ボランティア」として登録されます。短期飼養ボランティアは主に巣立ち前の野鳥のヒナ等を1回につき30日程度世話をするもの、長期飼養ボランティアは野生に返せない鳥獣を生涯にわたり飼養するもので、飼養登録が必要となります。本特集ではボランティアの手により一生懸命育てられている個体の様子をお届けします。これを機に、飼養未経験の皆様も是非、飼養をご検討下さい！

## 1 ハクセキレイのキキ



## 岩淵家

ハクセキレイを約1ヶ月間預かった、小学校2年生の野乃花ちゃんの記事とお父様の解説です。

### 【解説】

7月11日にハクセキレイの幼鳥<sup>1</sup>をお預かりし、途中、部屋の中で飛翔訓練などをした後、飼育15日目にあたる7月25日の7:00にベランダから放野しました。預かった時の体重は約20g、放野時の体重は約25gでした。放野の際はゲージの入り口を開けて放置しました。すると、5分程度警戒した後、出てきてすぐに隣家のベランダに移動し、数分後に地面を目指して5階から飛び降り姿を消しました。放野は朝でしたが、その日は夜になっても戻りませんでした。

翌朝、団地の出口を出たところで突然キキが足下に舞い降りてきました。その時のことを書いたのが娘の日記です。その後3日間ほどは午前中に餌をもらいに来ては家の中で遊び、午後はどこかに飛んでいくというパターンが続きました。

初めて終日姿を見せなかったのは放野後4日目でした。もう、どこかに行ってしまったかと思い、安心したと同時にどこか寂しい気持ちも湧いてきましたが、なんと、姿を消してから7日目に再び姿を現しました。通勤のため、自宅のある団地の前を歩いていたら、「ピッピッ」と鳴いて足下から駐輪場の屋根に飛び上がるキキを見つけ

【2010. 7. 26（月）晴 ののか 8才】

けがをした、とりのこどもをあずかって、せわをしています。そのとりはハクセキレイで、名前はキキにしました。きのう、ベランダに出して、す立ちをさせました。す立った次の日、おとうさんからでんわが来て「キキがいたよ。」と言ったので下におりたら、キキがかいだんのところに来ました。それで、かいだんのところにフンがおちていたので「きのうもかいだんで、ずーとまっていたのかな。」と思いました。おかあさんが「ハクセキレイってかしこいね。小さいのにすごいね。」とかんしんしていました。それから、ほとんど毎日エサを食べにうちにきます。あと、ドアをあけていたらかってにヨチヨチ入ってきます。食じ中もおかまいなしに入り、上を飛びまわるので、おにいちゃんやわたしは「ノミとかはねがおちるとやだな。」って思うけど、おかあさんは「へい気、へい気。」と言います。「ま、いいか。」と思うけど、やっぱり気になります。キキがなくと「いるんだな。」ってすぐわかります。でも、見つけにくいです。うちの中でも見つけにくいです。キキは、かわいくてかしこいので、みんなキキが大スキです。キキがうちに来ると、みんなが、え顔になります。なので、わたしもすごくうれしいです。



床で給餌を受けるキキ

<sup>1</sup> 保護番号：100244  
・種名：ハクセキレイ（巣内ヒナ）  
・保護日：2010.6.28  
・保護場所：寒川町  
・原因：巣から落ちる  
・状態：削瘦

ました。わざと私の視界に入って来たようでした。この時は仕事に行く途中だったため、家に連絡だけして出かけたのですが、後で聞いたところ、迎えに来た子供の後に付いて家の中に入って餌を食べたそうです。キキは親に餌の取り方を教わったことなどありませんが、7日間も自力で生き永らえていたわけです。給餌役が幼い子供でしたので、放野後のことが少し心配でしたが、しっかりと野生復帰していることが確認出来ました。また、**放野後 10 日**も経過していたにもかかわらず、自分が居た場所と飼い主の顔を憶えている記憶力にも感心しました。私は家族の中では、接触時間がもっとも短かったのですが、キキはちゃんと憶えてくれたようです。

こんなこともありました。ミールワームの代わりに甲虫の幼虫（カブトムシの幼虫の小さい版）をあげたところ、頑丈な顎のある頭部をくわえて何度も何度も振り回し頭をとってしまい、まず、その頭を食べ、次におしりにある排泄物がたまっている袋を破って黒い液体を外に出して、白い胴体だけにして丸飲みしました。勿論、誰も教えていません（私が教えられるはずがありませんし）。野性の力ですね。大したもんです。

再発見してからしばらくは、以前のように家

の中にも入ってきて、寝ている人間の上に乗ったりもしていたのですが、この頃は手を出すと寸前で身をかかわして逃げてしまいます。また、夕方は必ず何処かに行ってしまう、姿を見せるのは翌朝です。

**放野から 11 日目**、餌で釣って計りに乗せると 25g でした。放野した時と同じです。空白の 7 日間の後、飢え死寸前で餌をもらいに来たのだと思っていたのですが、どうも、そうではなさそうです。**放野から 13 日目**にあたる **8 月 9 日**から家族旅行のため、3 日間留守にすることになりました。キキは出かける日の朝も姿を見せてくれましたが、3 日後に帰宅してベランダに置いておいた餌箱を見たところ食べた痕跡はありませんでした。この留守を境にキキは姿を消しました。

短い間の飼育体験でしたが、子供も大人もそれぞれの目線で幼鳥の行動を観察し、いろいろな感動を味わった貴重な時間でした。野生に返すという目的で飼育するため、慣れた頃には離れてしまう寂しさはありました。しかし、元気に巣立ってくれたということは、いつの日か子連れのキキに遭える可能性もあるので、今はそれを楽しみにしています。

加藤さんを始め、飼育のご指導をいただいた皆様、有り難うございました。

## 2 ノスリのジロー × 渡辺家

一羽のノスリが縁あって長期飼養個体になった経緯を、高橋 恵さんの解説でお届けします。

ジローは名エデュケーションバード。現在は救護の会理事長、渡辺氏の元で長期里子として暮らしていますが、最初は短期のつもりで預けられたそうです。救護の会初の JBF（ジャパンバードフェスティバル）の出展時にノスリを連れていくことが決定し、そのために訓練対象となったノスリたちの中の 1 羽がジローだったそうです。JBF のためだけだし〜と理事長に適当に「ジロー」とつけられてしまったちょっと切ないノスリさん。しかし！このノスリにはまるでイヌのような忠誠心があったのでしょうか、2 か月弱の訓練の間に、いつの間にか親分が誰か分かっていたようです！



ノスリのジロー

JBF 当日、やっぱり適当にあしらわれていたジロー。このノスリの子守に疲れた理事長はジローを他の人に任せてさっさとどこかへ行ってしまおうというこれまた寂しい感じ…。ジローは慣れない人の多さにどぎまぎ、辺りをキョロキョロ。そんな時にのそのそ帰ってきた理事長は、ホッとした顔で彼女の顔を見るこの猛禽の可愛さに目を奪われてしまったそうです！やっと心が通じて良かったね、ジローちゃん！



すっかり渡辺家の一員になったジロー

# 3 タヌキのヒメコ × 井手家

生命が危ぶまれていた子タヌキを立派な大人に育て上げた井手さんの感動ストーリーです。

2009年8月、ミルクから育てられアイドル的存在になっていたタヌキのベタとクマの横でケージの隅にうずくまっていた仔タヌキ、それがヒメコです<sup>2</sup>。保護時417g、疥癬持ちで座間の路上にいたという彼女は、明らかに他の仔タヌキ達とは違っていました。保護されて一ヶ月半が経つというのに体重は1kg未満。自力で餌を食べることも出来ず、流動食を強制給餌されていました。異様だったのは、ケージの中でいつも見えない何かを威嚇していることでした。そんな様子に、センターの加藤先生も森重さんも、この仔は育たないかも知れないと話されていました。私自身、この仔はこのままこのケージの中で、ひっそりと逝ってしまうのだろうなと思っていました。

ところが、加藤先生から私にこのタヌキを連れ帰って見ないかとの話を頂きました。もともと動物が大好きで始めたボランティアですが、野生動物の長期飼養となると話は別です。また、自宅には2頭の大型犬と12匹の猫たちがいます。悩んだ末、短期飼養ということでお預かりすることにしました。

それまでは育たないからとヒネコと呼ばれていましたが、加藤先生からヒメコという新しい名前をいただいて、横浜の我が家へやって来ました。ヒメコは目があまり見えないようで、新しい環境に戸惑っていた様子ですが、用意したえさも木製のスプーンでひとさじ、ひとさじ食べて、933gだった体重が一晩で1036gに増加しました。ただ、ちょっとしたことでパニックを起こしたり、機嫌が悪くなって嘔み付いてきたりと一筋縄ではいかない様子でした。また、40kg以上ある犬たちに踏まれないか、猫に引っ搔かれれないかと、ハラハラしましたが、大きなトラブルもなく、先住の犬猫たちに受け入れられていきました。

その後も順調に体重を増やし、私達との生活にも慣れ甘えるようになってきた頃のことです。突然のてんかん発作が起き動物病院に駆け込むこととなりました。深夜から朝まで

一時間ごとに数十秒の激しい痙攣を起こし、白目をむいたヒメコはとても辛そうでした。獣医から水頭症の疑いもあると言われ、私もショックを受けました。見送る覚悟で預かったとはいえ、すっかり我が家の一員となっていたのです。幸い薬のおかげで症状は改善したのですが、後ろ脚に軽い麻痺が残ってしまい、以前の様に走り回ることが出来なくなりました。

ただひとつうれしいことに、一晩中抱した私に、ヒメコがすっかり心を許してくれるようになったのです。以前に増して甘えてくるようになり、夜寝るときは私の腕枕で眠るようになりましたし、それまでの様に何かを威嚇することも少なくなりました。おまけに野生の本能というのは素晴らしいもので、弱くなった後ろ脚をかばうため、逆立ちで歩くという業も身につけたのです。

その後は、激しい発作はほとんど起こさず、餌もよく食べて、この5月には1才になることが出来ました。体重は1.95kgと普通のタヌキの半分で、本物の豆タヌキです。現在は長期飼育の許可証をいただいて、我が家で元気に過ごしています。どうか、一日でも長生きをして、その愛らしい姿でみんなを癒して欲しいと思っています。



すっかり元気になったタヌキのヒメコ

<sup>2</sup> 保護番号：090276

- ・種名：タヌキ（♀、幼獣）
- ・保護日：2009.6.18
- ・保護場所：座間市
- ・原因：疥癬
- ・状態：削瘦、衰弱

# 鳥見旅

9月25日、26日に一泊二日で長野県白樺峠にタカの渡り観察会を行いました。どんな野鳥が観察されたのでしょうか。今回はその様子を報告します。

## 【白樺峠とは？】

今回の観察地である長野県の白樺峠は、毎年多くのタカの渡りを観察できることで有名です。秋になるとタカたちが南へエサを求めて、毎年同じルートを通して渡りを行います。

観察されるタカは、サシバ・ツミ・ハチクマが主でその他にもオオタカ・ハイタカ・チゴハヤブサなども見られ、およそ一万羽以上ものタカたちが毎年渡っていきます。

今回は白樺峠で2日間かけて、タカの渡り観察会を行いました。



観察の様子

## 【422羽!!】

観察会の初日は台風が接近しており、明け方まで土砂降りの天候で心配しました。台風の進路が北へ反れたので両日とも秋晴れの良い天候に恵まれました。

前日まで雨が続けていたためか、渡れずにいたタカたちが一気に渡り始めました。観察された種は、サシバ・ハチクマ・ツミ・ノスリで、タカ類以外ではハリオアマツバメも観察されました。

タカの渡りのカウントを行っている団体の報告では、サシバ・ハチクマ・ツミ・ノスリ4種の合計が25日は422羽、26日には668羽観察されたようです。25日の422羽は今年一番の渡りの数だったそうで、ピーク時に観察

することができて幸運でした。普段中々観察できないタカですが、今回は優雅な姿をじっくりと観察することができました。

## 【タカの渡り観察会に参加して】

観察会の参加者からの感想をご紹介します。「自然環境の中で猛禽類を観察出来たことで、新たに猛禽のすばらしさと偉大さを再確認する事ができました。やはり猛禽は自然の中が一番です。ゲージの中は似合いませんね。少しでも早く怪我などの治癒した鳥を自然に帰してあげられたらと思いました。」(T.Mさん)

「鷹が出ると、方向や種類を教えてもらいながら、観察しました。頭上を飛んでくれると、優雅な姿に、綺麗な翼の模様まで見え、思わず口を開けたまま、見とれていました。特にハチクマは大きめなのでダイナミックでした。」(K.Mさん)

今後も探鳥会を続ける予定ですので、興味のある方は奮ってご参加くださいね。



サシバ



ツミ



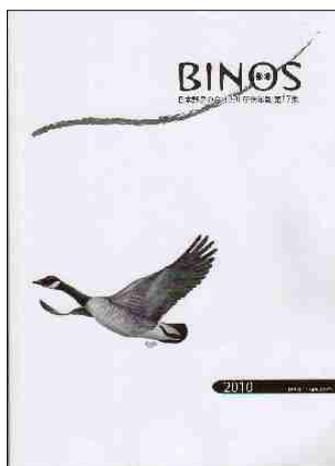
ハチクマ



ハリオアマツバメ

## 衝突中間報告、BINOSvol.17に登場！！

私たち野生動物救護の会「衝突チーム」は、2009年度より実施してきた秦野市立図書館でのバードストライクの調査の中間結果報告を、日本野鳥の会神奈川の研究年報「BINOS」に投稿し、11月3日、ついに発刊となりました。



このBINOSへの投稿は、より多くの方々に衝突の実態を知っていただく良い機会だと思っています。

また、BINOSには神奈川県内の鳥類に関することが色々載っています。例えば希少種の観察記録や、外来種に対する問題提起、ねぐらや繁殖に関する生態調査など、本当に多種多様です。

衝突はもちろん、他の気になる項目も是非ご覧になってください！

BINOSの内容をご覧になりたい方は、救護の会事務局まで！！

(ご購入については、日本野鳥の会神奈川のホームページをご覧ください。)

### 秦野市立図書館におけるバードストライクの実態調査（要約）

バードストライクというと、飛行機や電車、風力発電機などが取り上げられることが多く、一般家庭でも頻発しているにも関わらず、日本で過去にそれを年間を通して調査している記録はない。また、様々な衝突防止対策法についても効果は未知数である。野生動物救護の会では、対策を練る前段階として、そのベースとなる衝突の実態調査を秦野市立図書館にて1年間(2009年4月～2010年3月)行った。

調査内容としては、全ての窓の目視による衝突痕のカウントや撮影・計測、死骸等の回収、職員の方々からの情報収集などを行った。これにより、合計74例の衝突痕や死骸が確認または回収された。推定できた種は不明なものが最も多く、次いでハト類、小鳥類、猛禽類、ツグミ、カモ類となった。死骸は腐敗または白骨化しているものが多かったが、その中で解剖できたキジバトでは骨折を、ツグミでは内臓破裂を認めた。衝突痕が多く残る場所はほぼ決まっており、景色が良く反射する箇所に集中していた。保全センターの救護データの中で衝突を原因とするもののみを月別に見てみると、6月と10月をピークに季節変動があることが分かった。また、種別にはツバメ、ヒヨドリ、スズメ、メジロ、キジバトなどが多く、その3割以上が若い個体であった。

1年を通して行った衝突調査では、種によって痕のつきやすさや種の推定のしやすさが異なることが分かった。そのため、これからは写真やビデオカメラなど、様々な道具や方法を用いて衝突の実態を調べなければならない。また、図書館での結果と保全センターの救護データを月別に比較するとほぼ同じような傾向がみられたが、さらなるデータ解析により裏付けを行う必要がある。これからは、より多くの様々な症例を集めると同時に、人と鳥が共生できるようにベストな対策法を考えていきたい。

これからの衝突チームは、本当に効果がある衝突対策法を見つけるため、色々な実験をしていきます！！  
例えば…

①様々なステッカーを貼ってみる！



真っ黒



真っ白



模様付き

どうでしょうか？！背景によっても、屋内から貼るのと野外から貼るのでも違うかも？！

②釣り糸を張ってみる！（是非ホームページからカラー版 RUNNER でご覧ください♪）



一番よく衝突がある窓の前に、釣り糸を張ってみました。  
あまり目立っていない気がしますが、透明・黄色・青など、  
色によっても効果に違いが出るのでしょうか？！

これらの結果は一体…？！

## 調査スタッフ募集中！！

意外と身近に起こるバードストライク。ベストな対策法とは…？！

**あなたも一緒に調査を行ってみませんか？！**

①図書館調査スタッフ 調査日時：第4金曜日（変更あり）

場所：秦野市立図書館（〒257-0015 秦野市平沢 94-1）

内容：①衝突痕の有無の確認と計測、写真撮影

②対策グッズの取り付け

②データ整理・解析スタッフ 日時：いつでも

場所：どこでも（基本的には保全センター）

内容：①図書館で集めたデータの整理と解析

②保全センターの過去の救護データの整理と解析

## 衝突情報募集中！！

**1羽でも多くの命を守るため、衝突の情報収集をしています！！**

家にこんな鳥がぶつかった、こんな対策をしたら衝突が減った等、情報提供をお願いします。

できるかぎりの詳細を教えてください。幸いです。

また、この情報はデータとして保存し、対策等に使用させていただきます。

※今回はランナー通りの住人たちはお休みです。次回をお楽しみに！！

# インフォメーション

## お知らせ

### 保全センター傷病舎大掃除&豚汁パーティ&森田正治氏 講演会

●毎年恒例の傷病舎の大掃除です。動物たちが気持ちよく新年を迎えられるように、傷病舎をきれいに掃除しましょう。お昼には豚汁パーティも行います。

午後からは、北海道の野生動物保護で活躍なさっている森田動物病院院長の森田正治氏に講演していただくことになりました。演題は「人、動物、そして自然～北の動物医の叫び～」です。野生動物保護に興味のある方・学生の方、必見です！！

また、講演会の後は懇親会も行います。場所は厚木駅付近を予定しています。

大人数の方が楽しいイベントです。皆様のご参加お待ちしております！！

お申し込みは救護の会 事務局まで。

▽日時 12/19日(日) 大掃除(9:00～12:00) 豚汁パーティ(12:00～13:00)

森田正治氏の講演会(13:30～16:00) 懇親会(18:00～本厚木駅周辺)

▽場所 保全センター

### 図書館衝突調査(12月)

●毎月第4金曜日に秦野市立図書館にて野鳥の窓ガラスへの衝突事故調査を行っています。

随時、スタッフも募集しています。興味のある方は一度覗いてみませんか？

▽日時 12/24(金) 10:00～13:00頃まで

▽場所 秦野市立図書館

※詳細は当会ホームページをご覧ください

## ☆☆ 会員へのお誘い ☆☆

当会は、ボランティアスタッフの協力と設営趣旨にご賛同いただきました皆様方の寄付によって運営されております。

私たちの活動を支えてくださる賛助会員も同時に募集しています。

★ボランティア会員(年会費2,000円)

一般会員:どなたでもご参加いただけます

救護会員:ボランティア講習会を受講し、野生動物救護ボランティアとして登録された方

★学生会員:学生の方(年会費1,000円) <区分は上記と同じ>

★賛助会員:当会の活動にご賛同いただき寄付をしていただいた方

年会費:法人一口5,000円 個人一口3,000円 一口以上

振込先 ゆうちょ銀行振り替え口座 : 00270-0-47040

名義 : 特定非営利活動法人 野生動物救護の会

発行月: 2010年12月 発行: 特定非営利活動法人 野生動物救護の会 電話: 0463-75-1830

〒259-1306 神奈川県秦野市戸川1086番地の4 ホームページ: <http://kanagawa-choju.sakura.ne.jp/>

編集者 表紙絵: 山下宏幸 今日のRUNNER: 小松美絵 活動の現場から: 加藤わか葉

特集: 岩淵聖 岩淵野乃花 高橋恵 井手恵美子(編集: 武田智子)

鳥見旅: 山下宏幸 衝突中間報告: 高橋恵 インフォメーション: 渡辺優子、山下宏幸

Special thanks 平沼さん、ご協力ありがとうございました☆